

岩間 陽子

(政策研究大学院大教授・国際政治)

- ①中国の領土紛争
テイラー・フレイヴェル著、松田康博監訳
(勁草書房・7040円)
- ②日本近現代史講義
山内昌之、細谷雄一編著(中公新書・990円)
- ③独ソ戦 絶滅戦争の惨禍
大木毅著 (岩波新書・946円)

今年も中国に始まり、中国に終わった年だった。米中貿易交渉、新疆の収容所、香港抗議運動など、どれも容易に片はつきそうになく、来年以降も中国に振り回され続けるだろう。その意味で、中国の行動パターンを理解することは重要で、①は貴重な研究。中国とお付き合いある人は、業界を問わず手元においてもらいたい。

今年是一般向けの歴史の良書が複数出版された。②は日本近代史研究のオールスター戦。現代日本の第一級の知性を手軽に味わえる。③は、こんな本が売れるのだなどという嬉しい驚きだった一冊。もちろん、独ソ戦は全てが桁違いで、史実だけで圧倒される。しかし本書はそれを超えて、この時代に關する最新の研究状況を踏まえ、「ヒトラーの戦争」とされてきた独ソ戦に関する国防軍や国民の責任、何故このような戦争が戦われたのかに迫り、読ませる。